

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 29 日現在

機関番号：32309

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24593329

研究課題名(和文)慢性腎臓病患者教育のための看護職学習システムの開発

研究課題名(英文) Development of a nurse learning system for the education of patients with chronic kidney disease

研究代表者

上星 浩子 (JOBOSHI, Hiroko)

群馬パーサ大学・保健科学部・准教授

研究者番号：20389745

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：慢性腎臓病患者教育における知識、技術、態度など専門的な看護実践能力を包含した看護職者のためのEASE(Encourage Autonomous Self-Enrichment)プログラム学習システムを開発することを目的に研究を行った。まずCKD患者教育・EASEプログラム実施上の困難や学習者のニーズなど実態を把握した。そしてEASEプログラムの主要コンテンツと実施者の経験、学習ニーズ等を研修内容に組み入れたEASEプログラムWeb研修システムを開発した。今後、研修内容等、教材評価を行いながら質の高い学習システムにしていくことやEASEプログラムWeb研修の普及活動をしていくことが課題である。

研究成果の概要(英文)：This study was performed with the objective of developing an Encourage Autonomous Self-Enrichment program(EASE program) learning system for nurses having experience and skills in specialized nursing, including the knowledge, techniques, and requisite attitude for the educating CKD patients. First, we identified problems involved in CKD patient education and in establishing EASE programs, as well as the needs of learners. We then designed training content combining the chief components of EASE programs, the personal experience of the implementers, and the needs of students, to develop a web-based EASE program. In the future our focus will be to continue improving the quality of the learning program based on evaluations of training content and learning materials and to promote wider use of web-based EASE programs.

研究分野：慢性病看護学、基礎看護学

キーワード：慢性腎臓病 看護職学習システム 患者教育 セルフマネジメント Web学習 EASEプログラム

## 1. 研究開始当初の背景

慢性腎臓病 (CKD: chronic kidney disease) は、末期腎疾患 (ESRD: end-stage renal disease) や心血管疾患 (CVD: cardiovascular disease) の発症要因であり、我が国における成人人口の 18.7% (20 歳以上の一般市民における GFR が 60mL/min/1.73 m<sup>2</sup>未満の人) を占める。CKD 患者の増加は、医療経済的に大きな問題であり、我が国において CKD 医療政策は緊急な課題となっている。

CKD は早期からの生活習慣改善に向けた患者教育は重要であるものの、単に知識の提供だけでは患者は自分の問題として捉えることは困難であり、セルフマネジメントの継続には結びつかない。患者が主体的に取り組み、セルフマネジメントの獲得・調整ができるための効果的な患者教育が重要である。

患者の行動変容を促し、セルフマネジメントを支援する実践的なプログラムとして岡 (研究分担者) が開発した EASE プログラム (Encourage Autonomous Self-Enrichment Program) がある。このプログラムは主に透析患者の食事や体重管理などセルフマネジメント向上に効果が証明されている。しかし EASE プログラムを使用した先行研究において独自の判断で行っていることが多く、セルフモニタリング法など技法のみが重要視されていることや内容の均質化がされておらず EASE プログラムの質が保たれていないという問題がある。CKD 患者のセルフマネジメント獲得へ向け、より質の高い効果的なプログラムへと発展できるようにしていくことが必要である。

よって CKD 患者教育における看護職者の知識、技術、態度など専門的な看護実践能力を包含した看護職者のための EASE プログラム学習システムを開発することが必要である。

## 2. 研究の目的

CKD 患者教育における看護職者のための EASE プログラム学習システムを開発することである。具体的には

- 1) CKD 患者教育における看護師の経験を明らかにする。
- 2) EASE プログラムの問題点を明らかにする。
- 3) CKD 患者を対象にした EASE プログラムを行う看護職者の学習ニーズを解明する。
- 4) 効果的な患者教育を実施するための看護実践能力と能力獲得のための学習内容を抽出する。
- 5) CKD 患者教育における看護職者のための EASE プログラム学習システムを開発する。

## 3. 研究の方法

1) CKD 患者教育・EASE プログラムにおける看護師の経験

目標 1) ~ 4) については、EASE プログラムの介入経験のある看護職者および CKD 患者教育 (透析教育も含む) に従事している看護職者を対象にフォーカスグループインタビュー (FGI) を実施した。インタビュー内容は、CKD 患者教育や EASE プログラム実践における困難や成功例、効果的な患者教育に必要な要素、学習ニーズ、効果的な患者教育を実施するために必要な看護実践能力について項目ごとに自由に語ってもらい、逐語録をおこし、カテゴリ化した。~ の結果から学習内容を抽出した。

## 2) EASE プログラム学習システムの開発

### (1) EASE プログラム研修制度

研修目標、研修内容、研修方法、評価方法の設定

研修目標は、Bloom の taxonomy の主要次元を参考に設定する。認知的領域では知識から評価へ高次化できるように、情意的領域では受容から価値づけ、個別化へ、精神運動的領域では模倣から自然化に至るようにする。

研修内容は、EASE プログラムの前提にある理論やアクションプランなど主要なコンテンツと CKD 教育の経験や EASE プログラムの実践上の阻害要因や促進要因、学習ニーズなども組み入れる。研修方法は、講師による集団教育と遠隔教育による個別教育。

評価は目標レベルの到達度および学習者の自律性、及び教材評価。

### (2) EASE プログラム Web 学習システムの開発

遠隔教育として EASE プログラム研修の教材をソフトウェア化し、Web 学習システムを開発する。

## 4. 研究成果

1) CKD 患者教育・EASE プログラムにおける看護師の経験

CKD 患者は、データ異常があっても病気でないという思いをもっているため患者を理解することの難しさや、どんなに頑張っても不可逆的な疾患に対し【患者教育のゴール設定の不透明さにおける迷い】を感じていた。また、専門職者間における患者教育の認識の相違や多忙業務による時間調整の困難から【専門職者間の連携・協働と組織環境の整備】の必要性を感じていた。そして連携・協働をしていく中で職種間のすみ分けの不透明さにおける専門性への疑問とゆらぎを感じながら看護の専門性を再認識し、【看護独自の患者教育の追求と責任】について考えていた。また看護師は患者と一体化していく経験をしながら、やりがいと達成の喜びを感じ、学習意欲と介入効果に向けた自己研鑽をしていた。そして上司・同僚・実践家の存在と承認が患者教育

の促進要因となり、成功体験が及ぼす周囲への効果の波及に至るなど、【患者-看護師間の相互関係が及ぼす効果的影響】を受けていた。そして多忙な業務の中で効果的な患者教育のためのマンパワーの必要性和診療報酬について考え、看護師の専門性を高めるためにも【看護師の行う専門的患者教育と診療報酬への期待】をしていた。

#### 2) EASE プログラムの問題点の解明

EASE プログラムの実践における困難は介入目的の曖昧さ 生きがいと目標の連結 など【経験不足からくる不安・迷い】、効果的な介入時期・期間 再介入のポイント など【対象者の状況に応じた介入計画の不透明さ】や 生きがいを聞き出すことの難しさ 話の発展の仕方 動機づけや自己効力を高める言葉かけ など【コミュニケーション能力の貧弱さ】、介入した内容と患者の変化の分析 など【介入効果の分析と記録方法】、介入時間の確保ができない など【組織環境の調整と整備の必要性】であった。

#### 3) CKD 患者教育を行う看護職者の学習ニーズの解明

CKD 患者教育を行うための学習ニーズは、CKD に関する専門的知識、EASE プログラムの概念となる理論、コミュニケーション技法や感情認知を引き出す面接技法、EASE プログラム実際（介入方法）、EASE プログラムの事例検討、他施設とのディスカッション、EASE プログラムの研修会の企画であった。また EASE プログラムを学習する上で必要なツールとして、実施マニュアル、DVD など視聴覚教材、患者の状況を確認するための通信システムと面談マニュアル、「生きがい」「動機付け」「行動変容」など共通認識できる用語の定義、困ったときに確認できるサポートシステム、介入のための記録用紙、セルフケアに必要な備品（血圧計、体重計など）であった。

#### 4) 効果的な患者教育に必要な実践能力

効果的な患者教育は、患者の行動変容を促進する。よって行動変容を促進する患者教育に必要な能力は、【CKD に関する専門的知識】、話の発展、行動変容のためのモチベーションを高める関わりなど【情報を引き出し、発展させるコミュニケーション能力】、患者の状態から全体像を見極めるための判断をし、対処する 検査データから患者の生活を推測する など【臨床判断能力】、専門的知識・技術の保持と患者を敬う基本的姿勢がとれる 情報を共有し看護過程を展開する など【専門的姿勢・行動】、検査データから患者の生活を推測する【危険予知能力】そして、患者の思いを聞き、認め、ともに考える【看護師の醸し出す雰囲気と患者と共に考える態度】、効果的な患者教育を振り返ることや分析するために【自己分析力】と、倫理的

看護実践のために環境調整 や 他職種との連携 など【人間関係調整能力】であった。

#### 6) EASE プログラム学習システムの開発

EASE プログラムの主要なコンテンツと実施者の経験、学習ニーズ等を研修内容に組み入れ EASE プログラム研修制度を開発した。

##### (1) EASE プログラム研修制度

研修制度は、初級、中級、上級の 3 コースを設定した。初級コースは講義による集団研修と検定試験である。中級コースは初級コースを修了した学習者を対象に EASE プログラムの DVD 視聴（知識・技術の理解）と健常者への EASE プログラムの立案・実践（介入を通じた経験・技術の習得）とその発表（学習成果を発表、討議等を踏まえ共通理解）である。上級コースは中級コースを修了した学習者を対象に患者への EASE プログラムの立案・実践と発表である。

##### (2) EASE プログラム研修（初級）

対象 CKD 看護に携わる看護師など医療従事者。学習目標 EASE プログラムの概要（定義や特長）の理解ができる。アクションプランについて理解し、イメージできる。

EASE プログラム実施上の重要ポイントについて知る。（学習内容 「わかっているけれどできない」のはなぜか。EASE プログラムの概要（定義や特長）、セルフマネジメントと EASE プログラムに関する理論。

EASE プログラムのアクションプラン。成功のコツ。事例で学ぶ EASE プログラム。

学習方法 講師による講義、テキスト、視聴覚教材により知識や技術、問題に関する理解を深めるために有効な入力型学習。研修終了後、知識を確認するための検定試験。学習教材 テキスト、視聴覚教材。（研修時間）3 時間の講義と 30 分間の検定試験。評価 アンケート調査、検定試験である。

平成 27 年度の EASE プログラムの初級者コースは、群馬、静岡、広島、滋賀、東京などの会場で実施し、132 名が受講した。しかし講義による集団研修だけでは実施回数や参加人数に限界がある。また多くの学習者に受講してもらいたいことや受講者がいつでもどこでも受講できるということを考え、講義による集団研修と並行し Web 学習システムの開発を行った。

##### (3) EASE プログラム Web 学習システム

最初のログインページでは、EASE プログラムの概要、EASE プログラムを取り入れることのメリット、活用例、事例紹介を提示した（図 1）。

受講希望者は、個人情報登録後、Web 上で EASE プログラム研修 Ver3（図 2）を受講し、その後、検定試験（図 3）を受験、合格すると認定証が発行されるというシステムである。

**EASEプログラム®**  
Encourage Autonomous Self-Enrichment Program

- EASEプログラムの定義は？  
対象者にとって大切なことである生活重要事を前景化させたいと、保健行動モデルなどを活用しながら、対象者に対するアセスメントと理解を行い、行動や認知の修正に関する基本的原理と方法論は、認知行動療法を活用して、新たに構成されたものです。
- 誰に活用できるの？  
セルフマネジメント行動が必要な人であれば、健康者はもちろん、あらゆる領域の患者様に活用できます。ただし、行うべきセルフマネジメントに関する、知識がある人が対象です。
- 活用のメリットは？

1. 効果的なセルフマネジメント支援スキルが向上する	● EASE特長1 生活重要事を前景化する ● EASE特長5 認知行動療法を再構成
2. 根拠のあるセルフマネジメント支援とは何かの理解が深まる	● EASE特長2 保健行動モデルの活用 ● EASE特長3 研究結果に基づいている(開発過程)
3. EBNの構築方法が理解できる	● EASE特長4 構造化されたプログラム(事例報告から事例研究へ！) ● EASE特長3 研究結果に基づいている(結果報告)
4. セルフマネジメント支援の効果検証ができる	● EASEプログラムでは、88.6%の患者に行動や自己効力の改善有り ● 診療報酬獲得のための検証につながる
5. セルフマネジメント支援の自己学習ができる	● コピキタ学習が可能 ● 研修も実施中

図1 EASEプログラムのメリット

**初級研修の目標**

1. EASEプログラムの概要(特に、定義と特長)について理解する
2. EASEプログラムのアクションプランについて理解し、活用方法をイメージする
3. EASEプログラムの実施上の重要ポイントについて知る

図2 EASEプログラム Web 研修

所属科: 整形外科 2016-06-23 (木) 20:26:10  
開始時刻: 20:11:10  
ユーザー名: 群馬 花子 終了時刻: 20:41:10

EASEプログラム®(Web研修(初級)) (検定試験) 受講者番号: 1

問1. ( )に当てはまる語句を下から選び、その記号を解答欄に入力してください。

1. EASEプログラム®は、対象者にとって大切なことである生活重要事を前景化させたいと( )を活用しながら、対象者に対するアセスメントと理解を行い、行動や認知の修正に関する基本的原理と方法論は( )を活用して構築されたものと定義されます。

A: 医療の予後 B: 生活重要事 C: 検査データ  
D: 認知のステップモデル E: 他患療法 F: 保健行動モデル  
G: 看護過程 H: 認知行動療法 I: カウンセリング  
J: アセスメント K: 継続 L: インフォームドコンセント

問2. EASEプログラム®(アクションプラン)の各ステップに当てはまる語句を下から選び、その記号を解答欄に入力してください。

1. A: 行動の意図が変化し認知の確認 B: 情報収集  
C: 行動目標の設定と自己効力感の確認 D: 看護事の明確化と解決策の検証  
E: オンライン研修のアセスメント F: 認知の修正  
G: 看護過程の学習機会を含むセルフメン H: 計画の立案

図3 EASEプログラム Web 研修 検定試験

Web 学習の内容は、はじめに、患者のセルフマネジメント能力を高める支援技術 EASE プログラム Ver3 の理論と実践、 EASE プログラム：アクションプラン：Step1 ~ 3、 Step4 技法の選択、 Step5 実施、 Step6 評価考察、 EASE プログラムの技法と自己効力感、 EASE プログラム実践例、 EASE プログラムの実践上の重要ポイント、 終わりに9項目で構成されている。

#### (4) 今後の展望

本研究は、CKD 患者教育における看護職者のための EASE プログラム学習システムとして、EASE プログラム研修制度、EASE プログラム Web 研修(初級)を開発した。

しかし EASE プログラム Web 研修(初級)の開発にとどまり評価まで至っていない。今後、研修内容等の教材評価を行いながら質の高い学習システムにしていく。また研修実施による学習者の変化など、アクションリサーチ等により明らかにしていくことが今後の課題である。さらに EASE プログラム Web 研修の啓発と普及活動をしていく必要がある。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計3件)

上星浩子、岡美智代、丸山真美、徳田佐智子、及川真希、井手段幸樹、生方由美、富岡圭輔、大滝徹、海澤克太、群馬県腎不全セミナーによる CKD 市民公開講座 自己管理継続のコツ EASE プログラムの紹介、日本透析医学会第 60 回学術集会、2015 年、6 月 26-28 日、神奈川県横浜市

Hiroko Joboshi, Michiyo Oka, Misako Kawashima, Yuji Motoi, Haruko Shimayama, Competence of nurses in hemodialysis treatment, The 3<sup>rd</sup> Asian Nephrology Nursing Symposium, 16-17, Nov. 2013, Yokohama

上星浩子、岡美智代、川島美佐子、慢性腎臓病(CKD)患者教育における看護の経験、第 33 回日本看護科学学会学術集会、2013 年 12 月 6-7 日、大阪市

〔図書〕(計1件)

岡美智代、上星浩子ほか、医学書院、要点整理 ビジュアルラーニング成人看護学 腎・泌尿器、2013 年、94

〔その他〕

ホームページ等

<http://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/index.html>

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

上星 浩子 (JOBOSHI Hiroko)  
群馬パース大学・保健科学部・准教授  
研究者番号：20389745

(2)研究分担者

岡 美智代 (OKA Michiyo)  
群馬大学・大学院保健学研究科・教授  
研究者番号：10312729